

# 環境活動レポート

—2018年度(2018.8~2019.7)版—



作成：2019年10月25日

再発行：2020年6月4日

株式会社加藤商店

## 1. 組織の概要

### (1) 事業所名及び代表者名

事業所名： 株式会社加藤商店  
代表者名： 加藤芳秀

### (2) 所在地・事業活動

・所在地 本社・工場 千葉県山武市松尾町谷津2番地  
・事業活動 産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の収集運搬・中間処理業、  
各種タンクの清掃及び管理、再生油の製造・販売

### (3) 環境管理責任者

・環境管理責任者： 加藤芳秀  
・担当者連絡先： 千葉県山武市松尾町谷津2番地  
(電話)0479-86-2068 (FAX) 0479-86-2364

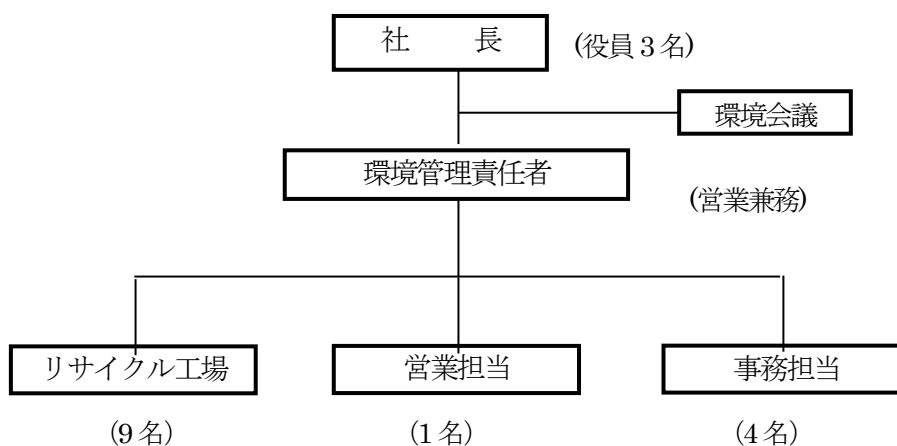
### (4) 事業の概要

・法人設立年月日 1959年1月28日  
・資本金 1,000万円  
・所在地 本社・工場 千葉県山武市松尾町谷津2番地  
・売上高、従業員、敷地面積

(8月～7月)

	2016年度	2017年度	2018年度
売上高(百万円)	419	496	498
社員数(人)	21	18	17
敷地面積(m <sup>2</sup> )	5,650	5,650	5,650

### (5) 組織図 (2019年10月25日現在)



#### (5-1) 役割と責任及び権限

##### ① 社長

社長は、当社における環境マネジメントシステムの最高位の責任と権限を有する。  
その主な職務、責任・権限は次の通りとする。

(a) 環境マネジメントシステムの実施および管理に不可欠な経営資源を必要に応じて提供する。  
経営資源には人的資源及び専門的な技能、当社のインフラストラクチャー、技術並びに資金を含む。

- (b)環境マネジメントシステムの確立、実施、維持の責任と権限を有する環境管理責任者の任命
- (c)環境方針の制定、改訂、周知
- (d)環境経営マニュアル、会社規定、手順書の制定、見直しにおける承認
- (e)環境管理に関する諮問及び審議機関としての環境会議の設置と開催の指示
- (f)環境活動計画書、環境目標・活動計画/進捗管理表の承認
- (g)環境教育訓練計画/実施記録の承認
- (h)マネジメントレビューの実施

② 環境管理責任者

社長より任命された環境管理責任者の主な職務、責任・権限は次の通りとする。

- (a)環境関係法令等登録表/遵守評価記録の承認
- (b)環境経営マニュアルの作成
- (c)環境活動計画書、環境目標・活動計画/進捗管理表の作成
- (d)環境教育訓練計画/実施記録の作成
- (e)外部環境情報の窓口及び報告書の作成
- (f)遵法性評価の実施
- (g)是正処置、予防処置の指示・有効性の確認
- (h)マネジメントレビューのための情報提供、及び記録の作成

③ 事務担当、営業担当、工場

- (a)環境目標・活動計画の実施
- (b)教育・訓練、緊急事態対応テストの実施
- (c)是正処置、予防処置の実施

④ 環境会議の役割

- (a)マネジメントレビュー
- (b)環境マネジメントに関する審議
- (c)各担当からの活動状況、改善提案等の報告、及び審議
- (d)環境目標・活動計画の審議
- (e)内部コミュニケーション

(6)事業活動の内容

(a) 許可の内容

	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	産廃			特管		備考	
				汚泥	廃油	廃アルカリ	廃油	産業廃棄物 特定有害		
収集運搬	東京都	第 13-00-005688 優良認定	2016.8.1	2023.7.31	○	○	○			
		第 13-52-005688	2016.5.13	2023.5.12				○ *7		
	茨城県	00801005688 優良認定	2017.1.27	2024.12.5	○ *1	○ *2	○			
		00851005688 優良認定	2014.10.1	2121.9.13				○ *7		
	千葉県	第 01200005688 優良認定	2016.7.21	2023.7.20	○ *1	○ *2	○			*3

		許可番号	許可年月日	許可有効年月日	産廃			特管		備考
					汚泥	廃油	廃アルカリ	廃油	産業廃棄物 特定有害	
収集運搬	千葉県	第 1250005688 優良認定	2014.2.18	2021.1.10				○ *6	○ *8	
	神奈川県	01402005688 優良認定	2017.6.6	2024.5.29	○	○	○			
		01452005688 優良認定	2017.6.9	2024.5.29				○ *7		
	埼玉県	01100005688	2018.8.30	2023.8.29	○	○	○			
		01150005688	2018.8.30	2023.8.29				○ *7		
栃木県	00900005688	2016.8.22	2021.8.21	○	○	○				
処分	千葉県	第 01220005688 優良認定	2016.9.1	2023.8.31	○ *5	○				*3
		第 01270005688 優良認定	2019.1.15	2026.1.10				○ *6		

\*1 含油汚泥に限る

\*2 油水分離可能なものに限る

\*3 これらのうち特別管理産業廃棄物であるものを除く

\*5 廃油との混合物に限る

\*6 廃油(揮発油類、灯油類、軽油類)に限り、特定有害産業廃棄物であるものを除く)

\*7 廃油(揮発油類、灯油類、軽油類)に限る)

\*8 特定有害産業廃棄物廃油(1, 4-ジオキサンを含むことのみにより有害なものに限る)

## (b) 許可施設

### ①千葉県 第 01220005688 (産廃)

施設の種類	処理能力又は保管量	数量
廃油等の油水分離施設	2.66t/日(13.3m <sup>3</sup> /5日)	2
廃油の受入保管施設	100 m <sup>2</sup> 、51 m <sup>3</sup> (ドラム缶、256 本)	1
処理後物保管施設	100 m <sup>2</sup> 、51 m <sup>3</sup> (ドラム缶、256 本)	1
処理後物保管施設	25 m <sup>3</sup>	3
処理後物保管施設	50 m <sup>3</sup>	2
残さ物保管施設	7 m <sup>3</sup>	2
残さ物保管施設	6 m <sup>3</sup>	1
残さ物保管施設	2 m <sup>3</sup>	3

### ②千葉県 第 01270005688 (特管)

施設の種類	処理能力	数量
廃油の油水分離施設	2.66t/日 (13.3 m <sup>3</sup> /5 日)	2
廃油(特別管理産業廃棄物)の 受入保管施設	40 m <sup>2</sup> 、19m <sup>3</sup> (ドラム缶 96 本)	1

施設の種類	処理能力	数量
処理後物(特別管理産業廃棄物)保管施設	40 m <sup>2</sup> 、19m <sup>3</sup> (ドラム缶 96 本)	1
処理後物(特別管理産業廃棄物)保管施設	50m <sup>3</sup>	3
処理後物の保管	50 m <sup>3</sup>	2
残さ物保管施設	7 m <sup>3</sup>	2
残さ物保管施設	6 m <sup>3</sup>	1
残さ物保管施設	2 m <sup>3</sup>	3

(c) 施設等の状況

① 運搬車両

車種	積載量	台数
タンクローリー	14,000 ℓ	5 台
タンクローリー	4,000 ℓ	4 台
大型マグナスダンパー	10,000 ℓ	1 台
マグナスダンパー	3,000 ℓ	2 台
バキュームローリー	4,000 ℓ	5 台
大型ユニック車	8 t	1 台
キャブオーバ車	2 t	1 台
キャブオーバー車	10t	1 台

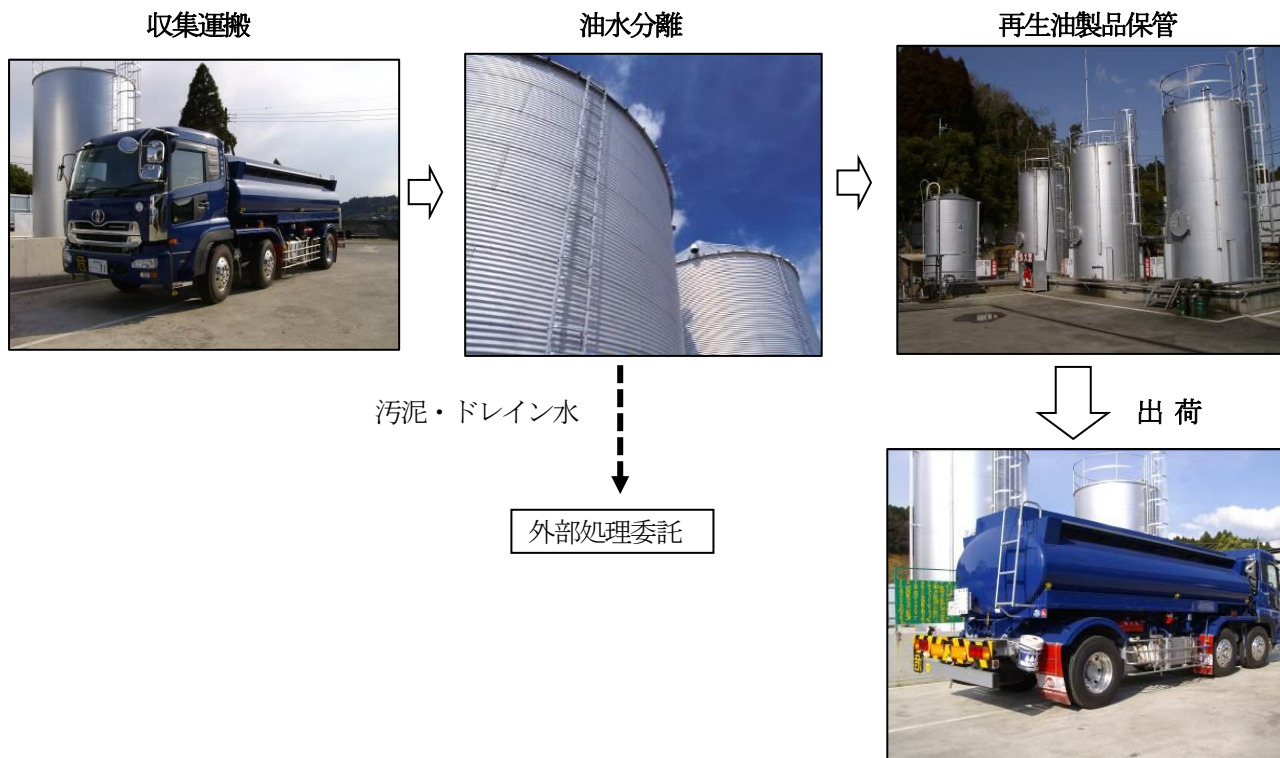
② その他車輛

車種	能力等	台数
フォークリフト	2 t	2 台
ドラムフォークリフト	1.8t	1 台
ユンボ	PC50	1 台
バイローダー510	1.2 t	1 台
営業用乗用車		2 台

③ 屋外タンク

保管能力	屋外タンク	50,000ℓ	再生用 5 基、有価用 2 基
	屋外タンク	25,000ℓ	再生用 3 基
	屋外タンク	14,000ℓ	再生用 2 基

④ 処理工程図 <油水分離処理工程図>



⑤ 免許等取得状況

免許等の種類	取得者数	免許等の種類	取得者数
大型自動車免許	11名	小型車両系建設機械運転	2名
危険物取扱免許(乙種4類)	9名	高所作業車	2名
危険物取扱免許(丙種)	2名	玉がけ技能講習	1名
フォークリフト運転技能講習	5名	酸欠・硫化水素危険作業主任者技能講習	8名
小型式移動式クレーン運転技能講習	4名		
運行管理者	2名		

(d) 処理実績

① 収集運搬量

単位 トン (8月～7月)

廃棄物種類	2016年度	2017年度	2018年度
廃油・汚泥	3,397	3,366	3,084

② 中間処理量

単位 トン (8月～7月)

廃棄物種類等	処分方法	2016年度	2017年度	2018年度
廃油・汚泥	油水分離	3,017	3,100	3,149

(注1)処理量には持ち込み産廃を含む。

③ 再生油出荷量

単位 トン (8月～7月)

	2016年度	2017年度	2018年度
再生油	3,760	2,965	3,107

## ④ 環境への負荷の状況

(8月～7月)

		単位	2016年度	2017年度	2018年度
総エネルギー 投入量	購入電力	kWh	15,337	16,256	17,026
	軽油	ℓ	73,553	73,600	74,069
	ガソリン	ℓ	631	1,218	1,588
	液化石油ガス	m <sup>3</sup>	64	57	20
	灯油	ℓ	0	0	916
二酸化炭素排出量	二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	202,432	204,360	209,074
産業廃棄物等 総排出量 (自社排出分)	金属類再生利用	トン	22.4	12.2	12.9
	紙類再生利用	トン	0.1	0.1	0.1
	廃プラ単純焼却	トン	46.0	1.8	10.01
	汚泥(残渣)	トン	1,796	1,690	1,692
水資源投入量	地下水	m <sup>3</sup>	6,892	3,086	5,131

(注)電気の排出係数; 2016年度～2018年度は0.505kg-CO<sub>2</sub>/kWh (東京電力 2014年度実排出係数)

## (e) 廃棄物処理料金

個別見積による(見積料は無料)。

## 2. 対象範囲

- (1)認証・登録番号： 0002581
- (2)認証・登録事業者： 株式会社 加藤商店  
千葉県山武市松尾町谷津2番地
- (3)事業活動： 産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の収集運搬・中間処理業、  
各種タンクの清掃及び管理、再生油の製造・販売
- (4)対象事業所： 本社・工場
- (5)認証・登録日： 2008年6月13日
- (6)更新・登録日： 2018年6月13日
- (7)有効期限： 2020年6月12日
- (8)活動レポート： 活動期間 2018年8月1日～2019年7月31日  
作成日 2019年10月25日

### 3. 環境方針

#### 《基本理念》

当社は、「メンテナンスニーズに迅速に適切に対応する」をモットーに、顧客との信頼を築くことによって、事業の拡大を目指し、社会貢献を果たします。

#### 《環境方針》

産業廃棄物等の収集運搬及び処分事業を通して、当社の関係する環境関連の法律、規制、条例等の遵守はもとより、地球温暖化防止や資源の有効活用を図るため、以下の環境目標に取組み、継続的改善に努めます。

- (1) 排出事業者とのコミュニケーションを密にし、廃油のリサイクル量を拡大します。
- (2) 収集運搬車両の燃費向上、節電等により二酸化炭素排出量を削減します。
- (3) 節水により地下水の使用量を削減します。
- (4) 自社排出廃棄物を削減します。
- (5) グリーン購入、化学物質の適正管理、製品及びサービスへの環境配慮に取り組みます。

当社の環境方針は、社内に掲示し、全ての従業員に周知します。  
また、環境活動を「環境活動レポート」に記載し公表します。

制定日 2007年11月1日  
改定日 2014年8月1日  
株式会社 加藤商店  
代表取締役 加藤芳秀

### 4. 環境活動の目標

(2018年8月1日 改定)

環境方針	環境目標項目	単位	基準年 2015年度	2017年度 実績	2018年度 当初目標	2018年度 改定目標
二酸化炭素排出量削減	収集運搬車両の燃費向上(毎年0.01削減)	ℓ/t(収集運搬量+再生油販売量)	9.95	10.39	9.92	10.38
	電気使用量削減(毎年0.01削減)	kWh/t(中間処理量)	4.95	5.24	4.92	5.23
	ガソリン使用量削減(基準年度維持)	ℓ/t(収集運搬量+再生油販売量)	0.12	0.17	0.12	0.16
	二酸化炭素排出量削減(年度エネルギー使用量に応じたCO <sub>2</sub> 量)	kg-CO <sub>2</sub> /t(収集運搬量+再生油販売量+処理量)	19.55	20.09	19.10	20.08
		CO <sub>2</sub> 総量(Kg-CO <sub>2</sub> )	192,729	204,358	199,850	205,873



環境方針	環境目標項目	単位	基準年 2015年度	2017年度 実績	2018年度 当初目標	2018年度 改定目標
リサイクル拡大	再生油の拡販 (毎年2%増)	トン/年	3,009	2,965	3,193	2,995
廃棄物の削減	OA紙削減 (毎年1%削減)	枚	25,000	30,000	24,250	27,000
	産廃削減 (毎年1%削減)	トン	29.00	54.90	28.13	52.25
地下水使用削減	(2015年度実績維持)	m <sup>3</sup> /年	3,812	3,086	3,812	3,812
エコ21の必須事項	グリーン購入 (毎年1品目増)	品目	28	30	31	31
	化学物質管理 (適正管理)	—	実績把握	実績把握	実績把握	実績把握
	製品・サービスへの 環境配慮(客先トラブル 件数ゼロ)	件	0	0	0	0

(電気の排出係数は0.505kg-CO<sub>2</sub>/kWh 東京電力 2014年度 実排出係数)

### 【2018年度 環境目標改定の主な点】

- ①収集運搬車両の燃費 --- 収集運搬車両の原単位は産廃収集量や有価物及び再生油販売量は大きな変化は無い見込みであることからエコドライブの徹底で前年実績の0.01削減とする。
- ②電気使用量の削減 --- 電気原単位は産廃処理量は前年並みの見込みであることから節電の徹底で前年実績の0.01削減とする。
- ③ガソリン使用量削減 --- 昨年は営業車の1台増で当初計画より増加したがエコドライブで原単位を0.01削減とする。
- ④CO<sub>2</sub>排出量 --- 節電、エコドライブで原単位を前年実績の0.01削減する。
- ⑤再生油の拡販 --- 営業努力を見越して前年実績の1%増加とする。
- ⑥廃棄物の削減 --- OA紙は裏紙利用徹底で前年実績の10%削減とする。産廃は昨年実績の5%減とする。
- ⑦地下水の削減 --- 当初目標どおりとする。
- ⑧その他 --- 当初目標どおりとする。

### 5. 環境目標の実績

(2018年8月～2019年7月)

○:目標達成、△:97%以上達成、×:97%未満の達成

中期環境目標	単位	2018年度 目標値	2018年度 実績値	達成率 (%)	評価
【運搬車両燃費向上】 軽油原単位(収集運搬量+再生油 販売量当たり) 2015年度実績を毎年0.01改善	ℓ/t	10.38	10.58	98	△
【電気使用量削減】 電気原単位(中間処理量当たり) 2015年度実績を毎年0.01削減	kWh/t	5.23	5.41	97	△
【ガソリン使用量削減】 ガソリン原単位(収集運搬量+有価物量 +リサイクル油出荷量当たり) 2015年度実績の維持	ℓ/t	0.16	0.23	70	×

中期環境目標	単位	2018年度 目標値	2018年度 実績値	達成率 (%)	評価
【二酸化炭素排出量の削減】 CO2 原単位(処理量+収集運搬量+ 有価物量+リサイクル油出荷量当 たり) 年度毎エネルギー使用量に応じた 原単位目標達成	kg-CO <sub>2</sub> /t	20.08	20.63	97	△
(CO <sub>2</sub> 総排出量の削減)	kg-CO <sub>2</sub>	205,873	209,074	98	△
【廃油リサイクル量拡大】 2015 年度実績の 2%増	トン	2,995	3,107	104	○
【廃棄物の削減】 OA 紙 2015 年度実績の 1%削減	枚	27,000	20,000	135	○
【廃棄物の削減】 自社廃棄物 2015 年度実績の 1%削減	m <sup>3</sup>	52.25	40.0	131	○
【地下水使用量の削減】 地下水 2015 年度実績の維持	m <sup>3</sup>	3,812	5,131	74	×
グリーン購入 2015 年度実績を毎年 1 品目増加	品目数	31	31	31	○
化学物質の適正管理 購入/使用/在庫記録の維持	—	適正管理	実施	—	○
製品及びサービスへの環境配慮 客先でのトラブル件数ゼロ	件数	0	0	100	○

電気の排出係数は 0.505kg-CO<sub>2</sub>/kWh 東京電力 2014 年度 実排出係数

#### 【2018 年度活動実績に対するコメント】

- ①収集運搬車両の軽油使用量削減- - - 軽油使用量は前年度と同程度だったが産廃収集量が 8%減少したこと、清掃工事でタンク車を使用したことで未達成となった。エコドライブ遵守は実行した。
- ②電気使用量の削減は使用量が前年比で 5%増加し未達成となった。新事務所のエアコン使用が影響した。今後は処理量と分離して管理する。
- ③ガソリン使用量の削減は営業車 1 台増加した為に使用量が増加した。原単位は売上高当たりとしていたが月次集計上の問題から収集量と再生油量で代用した。来年度からは売上高で管理する。
- ④二酸化炭素排出量削減の原単位は電気、ガソリンの使用量増加で総量と原単位とも未達成だった。
- ⑤再生油の販売は大手のユーザーの回復で目標達成となった。
- ⑥自社廃棄物削減で OA 紙は紙の節約で大幅達成となった。一方、産廃は廃油処理作業で発生したゴミの分別徹底で目標を達成した。
- ⑦地下水使用量削減は散水や清掃工事でのタンク車用で用量が増加した。
- ⑧グリーン購入は事務用品を中心に目標の品目数に達成した。
- ⑨化学物質の適正管理は化学物質の購入実績が無かった。
- ⑩製品及びサービスへの環境配慮では客先でのトラブル件数はゼロ件であった。過去事例の再発防止として実施した作業チェックを継続し成果に繋がった。

## 6. 環境活動取組結果とその評価

2018年度は以上のテーマ以外に、環境教育、緊急事態対応テスト、違法性の評価についても予定どおり実施した。また、ポケットブック配布と個人目標の明確化、エコニュースによる活動の見える化を継続した。社会貢献では、熊本地震や東日本震災への義援金を寄付した。東日本震災は2011年から継続している。

環境活動計画の内容	取組結果	評価
収集運搬車両のエコドライブ・アイドリングストップ徹底	徹底されている。	5
節電運動	節電は徹底された。	5
廃油リサイクル量の拡大	廃油回収先の新規獲得でリサイクル量拡大	5
地下水使用量の削減	節水意識は浸透した。	4
重機、フォークの軽油使用量節約	作業者の意識が浸透している。	5
営業車のガソリン節約	エコドライブが徹底されている。	5
ゴミ分別の徹底	再教育を実施した。	4
コピー用紙、トレットペーパー等再生紙への転換	実施されている。	5
両面コピー・裏紙使用	徹底されている。	5
メール等使用によるペーパーレス化	ほぼ徹底されている。	5

(評価点;スケジュールに対する進捗度等の対計画比で評価)

5点:90%以上 4点:70%以上 3点:50%以上 2点:30%以上 1点:30%未満  
各内容とも5点へのステップアップと5点の維持に努めるよう今後も継続して取り組む。

**緊急事態対応テスト実施状況** 2018年度は処理場内での火災対応訓練を実施しました。

①事故発生



②初期消火



③負傷者手当



④油拭き取り除去



## 7. 次年度以降の環境活動目標

2019年度は次に記載した2019年度～2021年度中期活動計画に基づき活動する。

環境目標		部門	単位	基準年 (2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度
売上高		全社	百万円	497	502	507	512
収集運搬量	産廃	運搬部門	トン	3,084	3,146	3,177	3,207
	持ち込み			222	224	226	229
	有価廃油			1,986	2,026	2,026	2,026
産廃処理量		処理部門	トン	3,149	3,180	3,212	3,243
再生油販売量		営業部門	トン	3,107	3,138	3,169	3,200
電気使用量	事務所	事務部門	kWh	6,419	6,355	6,291	6,226
	処理場	処理部門	kWh	10,607	10,686	10,760	10,833
	原単位		kWh/トン	3.37	3.36	3.35	3.34
軽油使用量	運搬車両	処理部門	ℓ	73,363	74,329	74,978	75,626
	原単位		ℓ/トン	8.96	8.95	8.94	8.93
	重機		ℓ	706	713	720	727
	原単位		ℓ/トン	0.22	0.22	0.22	0.22
ガソリン使用量	営業車	全社	ℓ	1,588	1,601	1,612	1,623
	原単位		ℓ/百万円	3.20	3.19	3.18	3.17
灯油使用量	暖房用	全社	ℓ	916	916	916	916
LPG使用量	給湯用	全社	m <sup>3</sup>	20	20	20	20
二酸化炭素 排出量	総排出量	全社	kg-CO <sub>2</sub>	209,074	220,574	212,323	214,067
	原単位		kg-CO <sub>2</sub> /トン	18.46	18.36	18.33	18.30
自社廃棄物 の削減	OA紙	事務部門	枚	20,000	19,800	19,600	19,400
	一般廃棄物	処理部門	m <sup>3</sup>	40	40	39	39
水道水の削減		本社	m <sup>3</sup>	使用なし	使用なし		
地下水の削減		処理部門	m <sup>3</sup>	5,131	5,080	5,028	4,977
グリーン購入		全社	品目	30	チェックシートにて評価		
化学物質の取り扱い		全社	—	—	購入実績把握		
製品・サービスへの環境配慮		全社	—	—	クレーム・苦情ゼロ		

二酸化炭素排出量の電気排出係数：2018年度は東京電力の2014年度実排出係数0.505kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用  
2019年度～2021年度は東京電力2017年度調整後排出係数0.462kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用

### 【中期目標値設定の主なポイント】

- ①環境活動の原単位目標値の裏付けとなる売上高、産廃収集量、産廃持ち込み、有価物、産廃処理量について数値目標に加えた。
- ②電気使用量は事務所と処理場に区分した。事務所は使用量、処理場は原単位削減とした。
- ③電気・軽油・ガソリンの原単位目標値は2018年度実績から毎年0.01削減することとした。
- ④自社廃棄物の量、水道水・地下水使用量は2018年度実績を毎年1%削減とした。
- ⑤グリーン購入については購入品目が一定の値に達したのでチェックシートによる定性評価に改めた。

## 2019年度～2021年度中期環境活動計画

取り組みテーマ	担当部門	活動内容
電気使用量の削減	全社	①エアコン使用の適正化(温度設定、退室時のOFF、フィルター清掃等) ②不要電力のOFF徹底(照明、OA機器)処理機器の定期点検・整備 ③処理機器の定期点検・整備 ④月次データの把握とフィードバック
軽油使用量の削減	運搬部門 処理部門	①アイドリングストップ・エコドライブ ②車両整備の徹底 ③効率的配送計画 ④月次データの把握とフィードバック
ガソリン使用量削減	全社	①アイドリングストップ・エコドライブ ②低燃費車の導入 ③車両整備の徹底
二酸化炭素排出量削減	全社	①エネルギー各項目目標達成 ②省エネ教育実施 ③省エネパトロール実施
自社廃棄物の削減	本社 処理場	①ペーパーレス ②裏紙再利用 ③分別の徹底
地下水の削減	本社 処理部門	①配管の漏洩点検 ②洗車水、散水の節約
グリーン購入	全社	①環境配慮製品の選定・購入
化学物質管理		①化学物質購入・使用・在庫の把握
製品サービス環境配慮		①事業に係わるクレーム・苦情ゼロ

### 8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社に係る環境法令等は次の通りです。

1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律
2	千葉県廃棄物の処理及び清掃に関する法令施行規則
3	自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別処置法
4	千葉県ディーゼル自動車から排出される粒子状物質の排出の抑制に関する条例
5	消防法
6	労働安全衛生法
7	特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律
8	水質汚濁防止法
9	道路運送車両法
10	道路交通法
11	浄化槽法
12	騒音規制法
13	振動規制法
14	高圧ガス保安法
15	フロン排出抑制法
16	千葉県環境保全条例
17	山武市公害防止条例

2019年8月30日に環境関係法令等の遵守状況を確認した結果、2018年度(2018年8月1日～2019年7月31日)は環境関係法令等への違反は無いことを確認した。

また、関係当局からの指摘や地域住民からの苦情等は無く訴訟も無かった。

## 9. 代表者による全体の評価と見直し

2019年9月2日社長による全体の評価と見直しを行った。

### (1)環境目標について

2018年度は2017年度実績から2018年度当初計画の一部を改定し活動を実施した。

その結果、産廃収集量は若干減少したが、中間処分量は僅か乍ら増加した。一方の廃油清掃作業の受注は堅調に推移した。再生油の価格は低迷が続いているが売上高は何とか前年並みを維持出来た。

軽油使用量は前年度同程度だったが、電気は事務所のエアコン使用、ガソリンは営業車の1台増で使用量が増加し、年間二酸化炭素排出量は若干の増加となった。また、地下水は場内散水や廃油清掃作業時の洗浄で使用量が増加した。グリーン購入、化学物質適正管理、得意先でのトラブルゼロは目標を達成した。

以上より、EA21活動を通してエコドライブや節電及び節水活動が定着していることが確認出来た。

2019年度以降については2018年度実績から新たな中期計画を策定した。今後も全員一丸となって目標達成に向けて取り組む。

### (2)環境方針、環境経営システムの変更について

①環境方針：変更無し。

②環境目標：新たに策定した2019年度～2021年度中期環境活動計画に基づき実施する。

③環境経営システム：変更無し。